

第20号

川越初雁会



令和3年度川越初雁会総会は書面にて決議

コロナの終焉を願って

川越初雁会会長 岩堀 弘明

マスクなしの挨拶が懐かしい
令和元年九月の総会の写真



残念ながら、本年度総会は書面審査の形を取らざるを得ませんでした。第五波のコロナのピークをもって終焉に向かうかと思っていました。また、コロナとの先の見えない戦いを続けるなければいけないようです。

川越初雁会の行事も、感染の状況を見ながら、継続して行くように計画していきたくと思っています。一日も早く例年の行事が開催出来ることを待ち望んでいます。

経過報告 (事務局)

総会の案内を準備していた

た七月中旬時点では、九月

十八日予定の総会は何とか

開催できる状況でした。

念のため、書面開催の

準備もしておきましたが、

まさかこれが生きてくる

とは思っても寄らない状況

の変化でした。ちなみに、

百三十九名の返信・賛成を

頂きましたことをここにご

報告いたします。

ひとえに新型コロナウイルス

ルス・デルタ株の急速な拡

大によるものです。

七月三十日に埼玉県に緊

急事態宣言が発出され、九

月九日に三十日までの延長

が発表されました。この時

点で総会の中止、書面総会

への移行が決まりました。

最終的に宣言は九月三十

日に解除され、十月九日の

散策会(両国界限)は実施

することができました。

今後の予定

講演会

令和四年三月十九日(土)

十五時

川越高校図書館二階

セミナー室

講師・田中敦氏(高三十四)

山梨大学教授

演題・社内ベンチャーと

ワーケーション

散策会

令和四年六月十一日(土)

九段坂下『昭和館』

九段坂下の『昭和館』について

佐々木典夫(高十二回)



昭和館正面入り口

厚生省在職中に、昭和館設立に深く関わっていらした、佐々木氏に経過や館の展示内容について記述して頂きました。

昭和館は、千代田区の九段坂下にあり、九段会館に隣接した七階建ての特徴のある建物です。コロナの感染具合によるのですが、春の散策会で見学する予定です。

川越初雁会ホームページには、佐々木氏の文章がもう少し詳しく記載されている他、十五回の岡部氏の感想も掲載していますので、合わせてそちらもご覧下さい。

《戦没者遺児記念館（仮称）》、戦没者追悼平和祈念館（仮称）、昭和館》は、二〇年前にまとめた厚生省の職場・仕事の思い出集「私の厚生行政」所収の援護行政で昭和館建設に関わった部分。印象に残るのは先の大戦の歴史認識の難しさ。戦没者追悼平和祈念館（仮称）の名称が問題を一層難しくした面があったなと思いきこされた。



折を経て平成一一年三月に「昭和館」として開館した。

昭和館は昭和五四年の日本遺族会の「戦没者遺児記念館（仮称）」建設要望から厚生省において検討が始まり、平成五年度予算に、戦後五〇周年の平成七年開館を目指して、国民の生活面から見た戦争の悲惨さと戦中戦後を通しての国民の生活上の労苦を後世代に伝承できるように展示等を行う「戦没者追悼平和祈念館（仮称）」として建設費が計上された。しかし、予算の計画通りには建設は進まず、曲

二〇年の歳月を要し、この間有識者委員のご協力を頂き、多くの職員が関わり、私も平成四〜五年は担当審議官、平成七〜八年は担当局長として携った。

当時は、平成五年八月には細川連立内閣が発足し、日本の過去の侵略行為や植民地支配に深い反省とお詫びの表明があり、平成六年八月には村山内閣総理大臣のいわゆる「戦後五〇周年」談話が出された時期だった。

戦没者追悼平和祈念館

（仮称）に対しては、「日本の行ったあの戦争に対する反省の意を表明し、侵略戦争の犠牲になった他国の人々の死も追悼すべき」或は「戦争の後世への伝承をうたいながら戦争の悲惨さを強調し、英

霊追悼に相応しからぬものであり、国立の侵略戦争懺悔反戦祈念館になってしま

う」など、先の大戦の歴史認識の相違から様々な意見が寄せられ、平成七年九月の企画検討委員会座長見解により、歴史的評価の分かれる問題についての展示は避けて資料収集保存を重視し、ふさわしい正式名称を決めるとの整理になっていった。

《昭和館》の事業は、戦中戦後の国民生活の姿を伝える（１）資料の展示、収集、保存（２）基本的図書、映像、音響資料の収集、閲覧

提供（３）関連情報提供

提供（３）関連情報提供
①常設展示室では昭和一〇年頃から昭和三〇年頃までの国民生活を伝える実物資料等を展示 ②映像・音響室では当時の写真、映像、レコードなどの音響資料をPCで視聴でき、④図書室では文献資料がデータベース化され検索閲覧ができる。⑤当時のニュース映画を上映する「昭和館懐かしのニュースシアター」もある。

一階入口に元橋本龍太郎内閣総理大臣の「昭和館の沿革」と題する銘板があり、設置の趣旨や昭和の時代の象徴が先の大戦でありこれによって苦労された方々の労苦を後世代に伝えていくこととする施設であることから昭和館と命名されたことを記している。

羽毛田信吾館長は開館二〇年を迎えてのご挨拶で「来館者は、年々増加傾向にあり、戦後七〇年に当たる

平成二七年度には五二万人を超え、その後も順調に推移している。なかでも、小中学校の来館が年を逐うて増加していることは、次世代への戦争体験伝承への重要性という観点から喜ばしい。しかしまだ昭和館を知る人は決して多くはない。平和の尊さがすっかり認識されるよう、時の経過とともに薄れゆく戦争についても庶民の記憶を風化させることなく伝えていく」と述べている。

開館して二十三年の昭和館は、関係者の地道な運営努力で充実してきている。関心の向きに応じた使い方ができるので、先ずは一度足を運んでいただくのが良いと思う。

昭和館が、今後も多くの人に利用され、戦中・戦後の国民生活の労苦を次世代に伝え、平和の尊さを訴える使命をしっかりと果たしていくことを願っている。（了）

陸上部

松本利雄先生の思い出

長坂 勲 (高十回)



平成9年9月27日、川高川女陸上部、同学年合同同窓会に出席された松本先生

正しく厳しい中でも愛情を注ぎ、指導されてきた事がそう呼ばしたのではないかと思いません。

そして先生で思い出すのは誰もが「めがね橋」と答えます。当時授業の一環として、めがね橋の往復競争を取り入れ、体力の強化と精神力の強さを養いお互いの絆を高める効果を生み出すことが出来たのではないかと思います。

昭和二十一年四月松本利雄先生が県立川越高等学校に着任されて、愛称として別名「おやじ」と呼ばれるようになりました。規律

な励みになりました。

ここで先生の歴史に少し触れさせて頂きたいと思えます。先生は日本体育専門学校（現日本体育大学）を卒業され、埼玉県立川越高等学校の体育顧問として三十二年間、携わりました。赴任早々、当時最新だった欧米流のインターバル走法を練習に取り入れて、それが功を奏し県立川越高等学校陸上競技部の黄金時代を（昭和二十六年）迎えることになりました。

中でも春の県学徒総合体育大会四年連続優勝、昭和二十八年全国高校陸上競技選手権大会（インターハイ）には木村昭夫大先輩が五千メートルで優勝、駅伝では毎年十二月京都路を

走る全国高校駅伝で昭和二十六年に六位入賞、昭和二十七年には三位入賞という実績を作り、全国に埼玉県立川越高等学校陸上競技部ここにありと、天下にそ

の名を轟かせたのであります。

こうした実績が全国の競技指導者に認められ、県高体連、県陸協、関東高体連、関東陸協、日本陸連などの理事を長く勤められ、ほか埼玉陸協理事長、会長、名誉会長を歴任され、国体埼玉県総監督、東京オリンピック写真判定主任など歴史に残る役員等も勤められました。更に指導者としての功績として秩父宮賞、文部大臣賞、勲五等瑞宝章を受賞されました。中でも平成五年に受賞した「有功賞」は名高く、全国の陸上競技指導者の中で年に一、二名しか受賞出来ない貴重な賞と聞いております。

最後に先生との個人的な思い出で申し訳なく思いますが、私が高校二年春の県陸上競技学徒大会八百メートルリレー（四×二百メートル）決勝の時の様子に触れさせて頂きます。当

時八百メートルリレーは大会の最後のレースを飾る注目のレースでした。この時は川越高校が勝つか、春日部高校が勝つか二強の時代でした。

しかし今回は春日部高校に強力な新人が入部しておりました。その新人は前年全国放送陸上の百メートル走で優勝した怪物です。（名前は大木と言います）。勿論今回の八百メートルリレーで私と一緒に走る第四走者としてエントリーされております。我が川越高校のリレーメンバーは第一走者が三年生の斎藤孝夫先輩、第二走者が三年生の金子巧先輩、第三走者が三年生の主将河野充夫先輩、そして第四走者（アンカー）が私二年生長坂勲という布陣でした。

この両校のリレーメンバーをみると会場の雰囲気は、春日部高校が優勝すると思っていた様でした。試

合前アンカーを走る私に先生は「いいか相手は背が高い、曲線はスピードが落ちる。お前はそこを突け！思い切り腕を振り直線に入っても緩めるな。」と言いました。

一走の斉藤先輩は春日部高校を引き離しそのまま二走三走とバトンを繋いできました。トップでバトンを受けたアンカー私は、先生の指示通り曲線では懸命に腕を振り、直線では差を詰められました。放送陸上百メートルチャンピオン大木選手を振り切りゴール、勝つことが出来ました。先輩達の懸命な走り、そして先生の一言が無かったら優勝することは出来なかったと思います。

当時はそんな思いは感じられなかったのですが、あのアンカーとして走った二百メートルを思い出すと万感胸に迫る思いでいっぱい。人間いかなる境遇

に陥っても決して諦めてはいけない、自分を信じて生きることの大切さを学びました。そして、先生は指導者として立派な功績を残され、平成九年十二月十五日逝去されました。享年八十八歳でした。今も川越高校陸上競技部OBは、松本先生から受けた薫陶を語り継いでいます。

秋の散策会

吉良邸界隈散策

二〇二一年度も前年度から引き続きコロナ禍により、初雁会の活動も大きく制限される結果となりました。春季に続いて、秋季に関しても感染拡大第五波の影響により開催が危ぶまれましたが、幸いにして九月後半から大きく新規感染者数の減少とともに、緊急事態宣言が解除となり、一年ぶりの活動実施となりました。

今回は「忠臣蔵」討ち入りの舞台となった両国、吉



吉良邸跡を散策

原 宗康 (高四十一回)

良邸周辺を訪ねました。今回、初雁会藤沢周平読書サロン進行役の圓山壽和氏(高十七回)に企画を頂き、事前にホームページへの寄稿、当日には参加者への資料の準備等、大いに盛り上げていただきました。事務局として感謝申し上げます。

十月九日(土)、十時にJR

両国駅前に集合した参加者は十九名。数日前には大きな地震が起き、電車が止まるといふ事態があったばかりで、少々不安な面がありましたが、当日は久々の秋晴れでまさに散策日和となりました。

まず駅から程近い回向院へと向かいました。こちらは明暦三(一六五七)年の「明暦の大火」の鎮魂のために建立された、本所両国のシンボルの寺院。討ち入り後の義士はここで休息をとろうとしたが、開門前だったため入れず、両国橋まで歩いた逸話があります。多くの供養塔がある中で、鼠小僧次郎吉の墓があることも有名です。

そこから徒歩で討ち入りの舞台となった吉良邸跡に向かいました。途中、その吉良邸のあった松坂町の名称がなくならないようにと、昭和七年に建てられた松坂町の石碑を見学しました。

いよいよ本所松坂公園、吉良邸跡へ向かいました。まさにあの討ち入りの舞台となった場所です。正面右

には「赤穂浪士遺蹟 吉良邸跡」の石碑。園内には西尾市の華蔵寺にある上野介座像を再現したものがありません。園内では参加した皆さんが、その時代に思いを馳せておりました。



勝海舟生誕の地で記念写真

ここからすぐ近くに勝海舟の生誕地があります。こは海舟の父の実家があった場所、七歳まで過ごした場所です。経歴を説明したパネルが設置されておりました。その脇には西郷隆盛の孫で、法務大臣だった

西郷吉之助の揮毫した勝海舟生誕の地の碑がありました。ここで一行の記念撮影を行いました。

散策会の最後は出発地である両国駅脇にある江戸東京博物館を訪れました。こちらは江戸東京の歴史と文化について、豊富な資料や復元模型をとおして、楽しみながら学べる博物館です。特に庄巻なのは実物大で復元した日本橋です。その他、寛永時代の町人地、大名屋敷、江戸御殿を精密に復元した縮尺模型が展示されています。そのほか模型を使用し、江戸文化を紹介しておりますが、大変興味深く時間を忘れて見入っていました。

そうして一行は出発地の両国駅に戻り、散策会は終了となりました。久々に会員の皆さんの顔を拝見することができ、大変うれしく思いました。

雁の記

川越散策日記
荒牧澄多
(高二十七回)

その二



十畳の間

昭和初期の官庁建築という貴重な歴史的遺産でした。

本題に戻って、分室の建物は、瓦葺きの寄棟造り平屋建て、縁側は銅板葺きの下屋になっており、商家とは異なる繊細さを感じます。瓦は葺き替えられており、鬼瓦が御所型か

今回は、建物の中を拝見しましょう。

ちなみに、隣に建っていた下見板張りの建物が、昨年取り壊されました。埼玉県

今回は、建物の中を拝見しましょう。

ちなみに、隣に建っていた下見板張りの建物が、昨年取り壊されました。埼玉県

されています。

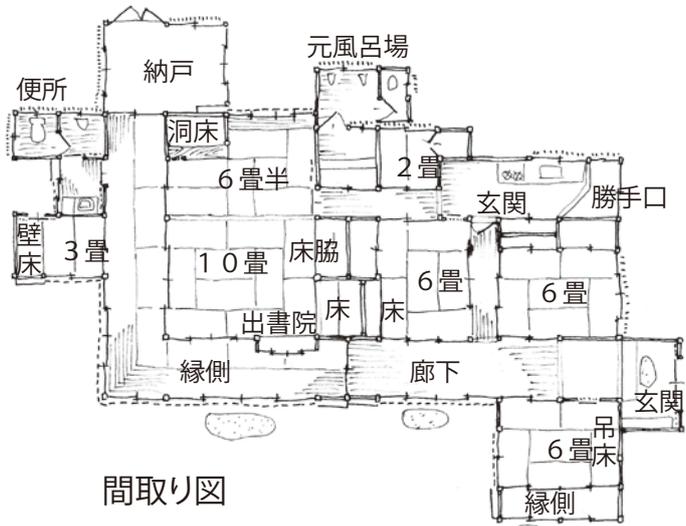
間取りは大きく、三つに分かれます。

まず、廊下の右側の、中廊下を挟んだ六畳二間と台所や二畳間、そして便所です。この便所は、風呂場でしたが公民館への改修時に直しました。二畳間は女中部屋だったのでしょうか。この一画は、内向きの諸室と考えられます。

廊下を進み杉戸を引くと、十畳と六畳半からなる座敷に入ります。一間幅の廊下は、この二室をL字型に取り囲む縁側になり、巾三尺分は薄縁に変わります。ここは、接客のための重要な

空間でしょう。

もう一つは、主屋から張り出した玄関左脇の六畳間と奥の三畳間です。それでは、主要な部屋を覗いてみましょう。



間取り図



中央公民館分室正面玄関

と、ガラスは往時のゆがんだものを使っています。この縁側に山吉さんが立って、庭での障子張りの様子を見つと見ていたと、経師の故安藤和一氏はお話されています。

と出書院も附属して、この出書院の前で八雲の長男の一雄氏は、父の遺品の机に向かつて執筆していたそうです。この北側は、洞床を持つ変形の六畳半です。両部屋の境に嵌め込まれた欄間には、鳳凰が描かれています。これは、伯爵邸時代のものでしょうか。奥にある三畳間は、網代天井と樹皮を残したままの柱、鴨居下に厚板を貼っただけの床、繊細な棧の障子

と、ガラスは往時のゆがんだものを使っています。この縁側に山吉さんが立って、庭での障子張りの様子を見つと見ていたと、経師の故安藤和一氏はお話されています。

に、ガラスは往時のゆがんだものを使っています。この縁側に山吉さんが立って、庭での障子張りの様子を見つと見ていたと、経師の故安藤和一氏はお話されています。

近代の和風住宅にくわしい某大学教授に見ていただいたところ、非常に質のいい建築であり、保存すべき価値が高いとのことでした。早い再開が望まれます。

読書サロンへのお誘い

藤沢周平と

安藤優一郎を読む

平成三十年から十七回卒、圓山さんを中心に、藤沢周平の作品を朗読しながら、鑑賞するサロンを隔月で開催しています。会員の幸すし、長島さんの座敷をお借りして、のんびりと江戸時代のような情緒を味わいながらの読書会です。今年「玄鳥」を読み継いでいます。

この読書会と併行して、近現代史の読書会も隔月で開催しています。今年には安藤優一郎著「洪沢栄一と勝海舟」を取り上げています。会員の増村さんの「チモトコーヒー」の喫茶室で開催され、朗読をしながら近代を動かした人々の機微を読み解いています。いずれの会も七、八名の参加者です。興味のある方は事務局まで連絡下さい。(事務局)

第十九回ゴルフコンペ

梶田 進一(高二十回)



久しぶりの初雁会のゴルフコンペ 39名が参加して盛大に開催

開催することができました。

成績は以下の通りです。優勝 小松正彦様(十七回) 準優勝 平野満様(十六回) 3位 伊東通夫様(二十回) なお、今回も自粛要請がありパーティの中止をさせていただき前半のスコア集計での成績となりました。一同を介しての懇親会はできませんでしたが、久しぶりにお互いの元気な姿に出会い、楽しい一時を共有できたことと思います。次回三月二十四日は第二十回となります。多くの参加をお待ちしています。

事務局からのお願い

年会費二千円未納の方は、お早めに納入をお願いいたします。

発行人

会長 岩堀 弘明

事務局 川越市六軒町一三十三番 吉沢翠亭義和

印刷 (株)櫻井印刷所